

産学官連携協力した取り組みで地域 人材育成に取り組む現代ビジネス科

現代ビジネス科は、令和元年度から5年連続で宮崎市の地元とつながる人材育成支援事業の採択を受けるとともに、令和元年9月に地域人材育成に関する包括的連携協定を結んだ宮崎県中小企業家同友会との連携を中心に、産学官連携協力した地域人材育成に取り組んでいます。今年度は、はじめて5月に宮崎県中小企業家同友会と共同での学内企業説明会(協力企業20社)を開催し、4名の学生とのマッチングが成立し内定しました。

また、今年度後期より、三股町と三股町商工会が官民連携で取り組んでいる三股町の活性化推進事業「五本松交流拠点整備事業」に新たに取り組むこととなりました。これは、地域活性化を目指した地域づくりを町と町民が共同して行おうとする事業ですが、若者の視点をそのまちづくりに生かしたいとの地域の思いと将来を担う学生たちにまちづくりに参加させ、より実践的な力を身に付けさせたいとの学科の思いが一致して始まった取組です。取組初年度の今年度は、学生による地域住民の意識調査に取り組みました。学生による企画提案、意見交換、内容調整等を経て、地域住民(子育て世代、高齢者)、三股商工会員企業(420社)三股中学校1、2年生(18クラス)対象に2月にアンケート調査を実施しました。



三股町役場でのアンケート企画打合せ会(令和4年12月2日)



町民向けアンケートポスター(令和5年2月9日より掲示)

卒業式・修了式のご案内

令和4年度卒業証書・学位記並びに修了証書授与式を下記のとおり執り行います。

期日:令和5年3月17日(金)

場所:清武町文化会館半九ホール

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者は卒業生・修了生につき保護者1名のみといたします。



幼児教育・保育センター主催 大豆生田 啓友先生 保育講演会

玉川大学教授
大豆生田 啓友 先生



令和4年10月12日、宮崎学園創立記念の一環として、玉川大学教授の大豆生田啓友先生にオンラインによるご講演をしていただきました。

講演テーマは「子どもがワクワク、保育者(学生)も保護者もワクワクする保育と保育者養成」でした。「日本にはぐりとぐらがあって、本当に良かった」というイントロに、ぐっと惹きつけられて始まった講演会。これからの保育で大切なこと、学生自身が保育にワクワクする保育者養成であるために必要なこと、子どもの主体性と実習生の主体性を尊重する実習とはどういうことか、という3つの視点でお話をいただきました。子どもも大人も多様性を認められる社会になってきた時代だからこそ、保育者養成校として、子どもの一人ひとりのよさを見つけ、子どもの主体性を尊重できる保育者を養成していかなければいけません。大豆生田先生の優しく温かい人柄を感じながらのお話は、80分という時を忘れるくらいの大変有意義な時間でした。

また今回の貴重なお話を、これからの時代の保育を担う学生と、子ども主体の保育者養成を目指す養成校教員、そして実習を受け入れる保育現場の先生方が一同に会して講演を聞いたことに、大変大きな意義がありました。



就職状況について

例年、この時期の就職内定率は90%を超えている状況でしたが、今年度は1月末現在で83%です。コロナの感染拡大で実習時期が大幅に変更になり、就職活動が十分に行えていないことが影響していると考えられますが、卒業まで2ヶ月となりましたので、諦めずに積極的な就職活動をしていただきたいと思います。

また、現代ビジネス科1年生は3月から就職活動が始まります。春休み期間を十分に活用して、積極的な就職活動を行い、採用試験へと繋げてほしいと思います。

後援会だより



2022年秋の忍ヶ丘祭

理想の短大を作る

学長 宗和 太郎



短大の理想とは何だろう?

経営する側から見れば、人気があって、入学者を集めるに苦勞せず、就職先からも信頼が厚く、教職員が一つにまとまり、互いを尊重しながら協力していることだろうか。入学者にとっては楽しく充実した生活が送れ、就職をはじめとした将来に確実につながることだろう。親にとっては、この入学者の願いに加えて負担が少なく、信頼がおける所だろうか。地域や就職先から見れば、しっかりした人間を育てることにおいて間違いがなく信頼できるということになると思う。

現実の本学はどうか?

高校卒業生の数は少子化のために年々減り、入学者はピークの平成6年頃と比べて半分になっている。一方、高等教育機関の数は増え、多くの大学や短大と同様本学も入学定員を充足できていない。就職は地元を中心に毎年100%であるが、中には就職して続かない者もいる。それでも創立57年、宮崎県を中心に送り出した卒業生は2万人を越え、地元にならぬほどの信頼は得ている。

今何を目指すべきか

全国的に見て短大進学者は減少傾向にある。それでも経済的に余裕がある家庭ばかりではない宮崎県で、短期で高卒以上の知識・技術、教養を身に付けさせ、子どもの将来につなげたいと願う親は少なくないと考えている。

①教職員の協力体制

個性豊かな教員が多い高等教育機関において、本学はここ数十年、全学的に目指すべきことを考え、共に努力する伝統を築いてきた。教職員の協力は厚い。

②将来につながる教育

進学も含めて就職は100%であるが、それはとりえず社会に送り出しただけである。就職後の長い人生の基礎を固めたい。それは知識や教養の寄せ集めではなく、その時々ぶつかる課題を乗り越えていける知識、判断力、行動力、そして思いやりや誠実さだろう。本学ではそれらを学修目標(学位授与の方針:ディプロマポリシー)として組み立て、2年間の教育の中に組み込み、実効性を高めようしてきた。しかし徹底を期すのはなかなか難しい。

肝心、要なものとして重視するのは、自分で調べて追究し、人と対話しながら課題を解決していく力である。そのためには授業を受身せず、さまざまな考えに出会う中で、新たな視野を切り拓く体験を積むことが大切だ。努力の甲斐あって、授業外での学習時間が増え、自力で学習するようになっていく。しかし自力で社会へ飛び立つにはまだ不十分だ。教員同士、学生にもっと探究や対話に臆せずチャレンジさせる工夫を話し合っている。

③楽しく充実した学生生活

教職員の視点だけで教育を考えるのは不十分だ。主人公の学生が毎日ワクワクして登学し、充実感を感じていなければならない。1人ひとりの学生の尊厳、多様性を尊重し、安心して自分を表現できる環境づくりに努め、学生がコロナに負けずにチャレンジして花を咲かせるキャンパスを実現したい。

経営的に余裕がある訳ではないので、すべてを十分に行うことはできない。全体最適なバランスが大切と考えている。様々なご指摘や相談をお寄せいただければ有り難い。

最後になるが、後援会には学校会計の中では十分な支出ができない分野を助けていただいている。感謝申し上げたい。

輝ける忍ヶ丘(学生の成長)

保育科 ユズリハのように

年度が終わりに近づく「ユズリハ」のことを思い出します。宮崎でも目にする緑の美しい木です。ユズリハは、春に若葉が出たあとに古い葉が代を譲るようにそっと落葉することから「譲葉」とも書かれ、「新旧交代」や「若返り」の象徴として新年の飾り物にも使われる縁起の良い植物とされています。私自身が考える理想の去り際でもあります。

先日、学内において「実習報告会」が開かれました。実習を終えた2年生が、これから実習に臨む1年生に向けて自分の体験や考えたことを伝えるもので、ここ数年ですっかり定着してきました。

現場の保育者から見ればまだまだ未熟かもしれませんが、2年間という期間の中で学生は本当にたくましく成長しました。そして2年生の言葉を一生懸命に汲み取るようとする1年生の姿もありました。

保育をめぐる環境は激動していますが、これからも明るい未来を信じながら保育科は歩いていきたいと思えます。



保育科長
泰田 久史



保育科1年
金樹 奈々花

自分が成長できたと実感できる1年間

4月に期待と不安を抱えながら、宮短に入学しました。私は小学校の時から夢である保育士になるために、宮短に入学を決心しましたが、まず友達ができるのか不安でした。しかし、同じ夢に向かって授業と一緒に受ける中、今では友達がいつの間にか増え、とても楽しい学校生活を送れています。授業では、保育者の役割や子どもへの対応などを学び、実習では授業で学んだ事を活かしながらも、実際に子どもと関わる中で保育を行う上で大切な事に気づくことができました。園の先生方からのアドバイスを頂いて、次に活かす事ができたりと、私にとって毎日がとても貴重な時間となっています。子どもの成長と一緒に喜び合い、自分も共に成長できるように保育士になりたいです。現在、コロナ禍でマスク着用ですが、笑顔を忘れず、楽しみながら充実した学校生活を送り、保育士に1歩ずつ近づけるよう頑張ります。

専攻科 (福祉専攻) 保育士+介護福祉士、積み重ねた福祉専門職に期待

ウィズコロナとは程遠い印象の2022年でした。平和で穏やかな暮らしこそが最高の幸せだと感じる昨今、元気を貰ったことのひとつにサッカーW杯三苦選手の「1mmの奇跡」があります。ギリギリまで諦めない姿に感動し、介護福祉士国家試験を前に気持ちを引き締め励む学生と重なりました。介護福祉士養成1年課程は、保育士資格を有することが入学条件です。保育科入学と同時に始まったコロナ対策から3年が経過し、生活制限という不自由を乗り越えた先に歓喜の拍手がおきることを願っています。

さて、専攻科で注目する社会の動きに「医療的ケア児支援法(2021年9月施行)」があります。これを受け、宮崎市の小戸保育所では痰の吸引や経管栄養等を必要とする医療的ケア児に対する保育支援が整備され、2023年度から始動します。介護福祉士養成課程では「医療的ケア」が必須科目ですので、保育の未来に対する専攻科修了生の可能性を感じているところです。今後、高齢者施設や障がい者(児)施設などでの活躍は勿論のこと、保育所並びにこども園で一歩先行く人材として求められるのではないかと、新時代の幕開けに期待しています。



専攻科(福祉専攻)主任
桑迫 信子



専攻科(福祉専攻)
恒松 美空

人への思いが深まる充実した1年間

私は、これまで高齢者と関わる機会があまりなく、理解が浅かった分沢山のことを学び、とても濃い1年となりました。はじめての実習では、高齢者とのコミュニケーションや自分の介護力に不安な気持ちがありました。しかし実習を重ねるうちに、接し方や気持ちを汲み取る大切さを学び、利用者様から笑顔を向けられることが介護を学ぶモチベーションに繋がりと、喜びに変わりました。そして次第に、人のために働きたいという気持ちが強くなっていきました。また、高齢者施設では避けられない看取りについても学びました。命の大切さや人間の尊さ、人生の最期に関わる仕事の素晴らしさを感じました。そして自分自身も、人との繋がりを大切に生きたいと考える機会となりました。保育に加えて介護を学び、幼児から高齢者まで幅広い年齢層との関わりをもつことができた短大生活は、自分の成長を感じると共に、人に対する思いが深くなった充実した生活でした。

現代ビジネス科 学生ひとり一人の夢実現を支援する現代ビジネス科

本年度入学生より、学科設立以来続けて来た「ビジネスコース」「医療事務・医療秘書コース」の2コース制を「実践ビジネスコース」「メディカル秘書コース」「司書・メディアコミュニケーションコース」「大学編入コース」の4つのコースに改編いたしました。これは、時代や地域社会のニーズに応えるとともに、「しっかりとした専門性を身に付ける質の高い教育」と「学生ひとり一人の個性や特性を十分に伸ばすことのできるより広くて柔軟な学び」の提供を目的とするものです。また、これらの観点から、希望コース選択時期もこれまでの受験時から、短大に入学後にきめ細かなオリエンテーションと将来の進路希望面談等を経て決定することとしました。

「実践ビジネスコース」と「メディカル秘書コース」は、これまでの二つのコースの教育内容を引き継ぐものですが、地域産業界や経済団体との関係を強化したより実践的な学びの充実や将来の地域のチーム医療を支えるメディカル秘書スキルの充実を図ります。

また、司書資格は、これまででもビジネスコースの学生が、卒業認定単位の他に約20単位の司書関連科目単位を得ることで取得出来ておりましたが、文部科学省とも確認の上、学科の卒業単位として認められることになったことから、「司書・メディアコミュニケーションコース」を設けました。このコースは司書に就くこと以外にも、出版、広告など広く一般企業への就職も目指すことができます。九州内の短期大学で司書がとれる学科は限られていますので、今年の学生募集では、熊本、長崎、鹿児島などの県外からの受験者も増えました。

「大学編入コース」は短大卒業時に大学3年に編入することを目指します。短大からの大学編入に必要な小論文対策や面接対策、大学研究などを1年次から行いますが、本コースの一番の特徴は、大学編入準備と並行して、上記の3つの専門コースの専門学習や資格取得を行い、十分な社会人基礎力を身に付けて、進学できることです。

このように4つのコースを選べる学科に改編して、令和5年度が1、2年生ともに新学科の学生となる完成年度であります。これまで培ってきた実績と信頼を大切にしながらも、新たなニーズ等も常に意識しながら、地域に根差し地域に信頼される人材育成教育の充実を図ってまいります。



現代ビジネス科長
矢田 憲太郎



現代ビジネス科1年
一水 鈴菜

成長したこと

私は自宅から2時間かけて通学しています。そのため朝6時には家を出なければなりません。入学当初から規則正しい生活を心がけ、朝は親を頼らずにきちんと起きることを自分に課してきました。電車内の勉強もできるだけするようにしてきました。しかし疲れが重なるとうるさくなってきます。そんな時は無理をしないで続けることのほうが大切だと気づき、通学時間に車窓の風景を見て心を休めるなど工夫をしました。その効果もあり、入学してから遅刻は一度もありません。大学の勉強は新しい内容ばかりで、初めのころはついていけるか心配でしたが、勉強の方法を工夫することで徐々に理解できてきました。専門性の高い授業ですが、とても楽しく受けています。友人たちと支えあって新しい知識を吸収することにやりがいを感じています。2月には医療機関実習も始まります。医療現場に出られることがとても楽しみです。今後も有意義な学生生活を送りたいと思っています。



現代ビジネス科1年
藤田 美咲

インターンシップで学んだこと

私は、接客・販売の仕事に興味があるため、青島リゾート株式会社の企業実習(インターンシップ)に参加しました。宿泊・館内施設を利用されるお客様の目的は様々ですが、気遣いやおもてなしについて学ぶことができました。特に、お客様の様子や動きに常に目を配りながら、何を求められているのかを素早く的確に察知することが大切だと感じました。また、今回ご指導いただいた社員の方から、ホテル業界には表の華やかな面だけでなく、客室清掃や荷物の運搬等、重労働の面もあることを教えていただきました。実習が始まった時はとても緊張していましたが、お客様に積極的にご挨拶やお声掛けをすると嬉しい反応が返ってくることもありました。私は実習中、社員の方々からの指示を待つのではなく、周囲の状況を観察しながら進んで作業に加わる等、自分にできることを探す姿勢を大切にしました。今回の経験をこれからの就職活動に活かしていきたいと思えます。